

清流と共に

上空から望む球磨川

令和2年7月豪雨から2年 感謝を胸に 創造的復興へ

球磨川流域に甚大な被害をもたらした令和二年七月豪雨から二年が経ちます。

改めて、この災害によって亡くなられた皆様とそのご遺族に対し、衷心より哀悼の意を表するとともに、被害に遭われた皆様に、心からお見舞いを申し上げます。

また、発災直後から、ボランティアの皆様をはじめ、多くの方々に多大なる御支援を賜り、深く感謝申し上げます。

これまで、国や市町村等との連携のもと、被災された方々の一日も早い住まいや生業の再建をはじめ、道路・鉄道などの交通インフラの復旧、産業・経済の再生など、被災地の創造的復興に全力で取り組んで参りました。

その結果、被災地では少しずつ明るい話題が聞こえるようになり、復旧・復興は着実に進みつつあります。

一方、今もなお、多くの方々が仮設住宅等での生活を余儀なくされています。

改めて、誰一人取り残さないという決意を新たに、創造的復興の歩みを力強く進めて参ります。

そして、球磨川流域の一日も早い安全・安心の実現を目指し、流域住民の皆様の願いである「命と清流をともに守る『緑の流域治水』」を全力で進めて参ります。



令和四年七月
熊本県知事 蒲島 郁夫



被災を乗り越え、球磨川の恵みを受けて生まれた球磨焼酎



「令和2年7月豪雨からの復旧・復興の進捗状況」を
ご覧になりたい方はこちら

